1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第11巻第3号　1967年3月1日発行

聖徒の道

3

VOL. 11　No. 3

大管長メッセージ……デビド・O・マッケイ…… 1

伝道部長会メッセージ……田　中　健　治…… 6

≪特　集≫

ＭＩＡにあなたの若い力を …… 8

系図のページ……20

支部だより……22

ＭＩＡリーダー……18

聖徒の道　11巻3号

1967年3月1日

△予言者のことば▽

心の平和を見出すための神の計画

デビド・O・マッケイ大管長

私たちは全世界における主の教会に対する主の祝福、また確かな主の導きと霊感に感謝しております。深い感謝の念で私たちは、神を身近かに、またその善意を認めるのであります。それは、この地上における神の王国建設に、その時間と資力を捧げている教会の会員たちを、忠実さと活発な努力に専念させる真の激励の源泉であります。どこにおいても、その反応が教会の人々に、教会の数字と報告となって現れております。彼らがとる責任、引き受ける任務、私たちの礼拝堂建設のための資金は最も著名なものであります。

私は人生を愛します。この世代に住むことは真に大きな喜びであると思います。毎朝私は私の窓から東方の山々を眺め素晴らしい秋の日の初まりを告げる大陽に挨拶する時、私は人生の喜びと特権を感じ、神の善意に感謝するのであります。私は私たちが住んでいるこの素晴らしい原子時代の業績をある程度まで自覚し感謝しております。今日の科学者の発明は到底想像できない程です。ほとんど毎日、私たちはとても信じられないような達成を読みます。原子時代は今始まったばかりですから、現在進行中の原子探究が展開されて行ったらどんなに興味深い発展を遂げるか誰にも不明なのであります。その善い可能性は破壊的な可能性より遙かに勝っておるのであります。今の時代の発明発見は人類史上無比でありますす。人類にとって祝福あるいは破壊どちらにとっても、そのような潜在力を持っている発見は、それを管理する未曾有の重大な責任を人に負わせたのであります。

私たちの住んでいるこの時代はたしかに輝かしい時代ではありますが、はかり知れない可能性と同様に、無限の危機をはらんでいることは誰も疑う余地がありません。ここに世界を通じて、その状態を真に理解せねばならないわけがあるのです。私たちが今、私たち自身の国内のおひざもとで法律の無視、秩序の破壊、犯罪の増加を学び知った時、がく然とするのであります。

つい先日、私はデゼレット・ニュースの社説で、約六百万のアメリカ人がアルコール中毒にかかっていると読みまし

た。保健所はアル中を、アメリカ合衆国における四番目に大きな公衆保健の問題にあげております。幸いに現在ユタ州においてはあまりこの問題にわずらわされておりません。アル中患者の全人口への比率にユタ州は五十の州の四十六番目に位置しております。さらにそれは、一人当りのアルコール消費量及びアル中患者の数の減退しつづけている唯一の州であります。ユタ州においては飲酒業の法案を通過させてより多くの人をより多くの場所で、より多くの時間に亘って飲ませるように透惑するようなことのないようにしましょう。社説に指摘してあるように、我が州の伝統と標準では、丁度その反対にすべきであります。アィオワにおける最近の飲酒業の経験を見るのに、ただ飲酒者とそれに伴う悪の増加を示しております。飲酒の増加の結果は道徳を損じ健康を害し、家庭を破壊し、交通死を激増させることは、すべての人にわかり切ったことであります。この危険な脅威のために、今日、世界はイエス・キリストの永遠の真理にいかりをおろして、この移り変る世の中に、永遠の真実があることを覚る必要があるのです。

チャールス・フォスター博士は、私たち文明世界の〝混乱状態〟について説明しております。

私たちを堅固に守っていた政治機関及び理想は放棄されてしまった。長い間受け入れられて来た社会理論は拒絶されて新しいものが採用されました。私たちの先祖たちの理論でもありまた実行して来たところの道徳的標準は退けられてしまい新しい世代の人々は長老たちを尊敬せず長い間宗教と教会の土台と見なされていた教義は否定または変更されたのであります。

人の自由意志を剝奪し個人の自由を奪おうとする努力がなされております。私たちは生命そのものの次にくらいするものは大いなる神の賜、自由意志であることを決して忘れてはなりません。

アメリカの運命を左右する二つの最も大切な文献は、独立宣言文とアメリカ合衆国憲法であります。この二つの靈感された文献は、主として個人の自由について述べてあります。この原則に立脚して、これらの文献によって自由企業は育成され、アメリカ合衆国は二世紀足らずの内に、世界のいかなる国にも増して、大きな成果を挙げたのであります。私たちの自由の喪失の脅威について深く心配しているすべての忠実な市民の関心は、ニューヨーク市のアメリカ経済の基の会長フレッド・G・クラークによってよく表現されました。十数年前の彼の演説で彼は「〝人の法典〟によって〝神の法典〟」が置き代えられる恐れについてのべました。私は一九五二年の話にそれを引用するほど彼の言葉に強く印象づけられたのでありました。

彼は、何かアメリカに欠点があると宣言しました。

〝この世界の指導権が我々に任された、この史上重大な時に、私たちは混乱と不承不承の内にしりごみして立っております〟私たちは立つべき土台を見失っているのです。それは私たちが私たちの国民の誕生の状態を忘れたからであります。

ここ数十年来アメリカにおいては、冷静家の知識層が、私たちの呼ぶアメリカの伝統を嘲笑するならわしとなって来たのであります。この破壊者の道具は、最もらしいなまはんかな真理、すべての人の心にひそんでいる物欲に訴え、巧みに無神論的性格を提起し、アメリカが今まで立派な神聖なものとしてきたすべてのものにいいかげんな態度をとらせようとする言葉および思想であります。

このような言葉と思想を植えつける人々は、馬鹿かあるいは悪者か愚者かまたは外国の機関か、スマートなエレキかあるいはスマートな組織者かであります。

〝彼らがすでになしたことは今や問題でないのであります。要はそれをいかに防止するかであります。すべての地位に在るすべての指導者が、このことを心がけねばなりません。何となれば破壊は私たちの生活のあらゆる面に作用しているからであります。このサボタージュの起っているところは、学校、教会、コンミュニストの支配する労働会館、講習会、映画、舞台、新聞、雑誌及びラジオであります。あらゆる通信機関が私たちに反し

て利用されているのであります。

自ら信じている生き方の計画を持っている人あるいは国民は、知的安定を保っております。

この安定を破壊するには、彼の計画に持つ信仰を破らなければなりません。人がその仲間と共に保持している生活の法則への信頼が、心の平和をもたらし、グループの能力を発展させているのであります。

アメリカの人生の法則が、どの程度弱められたかはただその法則の基礎がどの程度弱められたか注目することによって、最もよく現されます。

この基礎（これにはいささかの疑いもあり得ません）は十戒と黄金律から成っております。この道徳的法則の内に私たちは完全な人生の道を持っております。

これらの教訓を受入れることは、霊的に政治的に、社会的にまた経済的に人生のすべての面に心を配ることであります。

アメリカはその政治的および経済的体系の内に信仰を持っている国民であります。何となれば彼らは神に信件を持ち、これらの体系を神の教えにそうてたてているからであります。

カール・マルクスから現在の指導者に至るまで、すべての共産主義者たちは、社会主義体制を打建てる前に、神への信仰を破壊せねばならないことに同意しております。

ですから、アメリカにおけるアメリカ人の信仰のサボタージュの問題は、神への人々の信仰を国へ切り換えようとする問題であります。

そのことが政治に事業にまた個人的な契約に道徳を低下させたのであります。

道徳を古くさい迷信だと見なす人々が広範囲に増加しております。

宗教は多くの教会の会員にとって、生活の、よい道というよりも、むしろ安らかな死に方となって来ました（フレッド・G・クラーク著〝神の法則に代る人の法則〟から）

私たちは、皆国民の標準をくつがえす脅威は、この話がなされてから増えたことを知っております。同様に私たちはまたアメリカ合衆国の憲法とアメリカ人の家庭の基礎をなしていた思想の放棄の驚くべき増加を知り、あなたは、そこに真に憂うべき点があるということに同意されるでしょう。

私たちがここで礼拝をしているこの瞬間にベトナムにおいては戦争が荒れ狂い老若男女の生命が奪われております。家庭の標準、子供を育てる基準さえ破壊されております。

ミズーリ大学の前哲学教授であった、J・ウイリヤム・ハドソンは次のように述べております。

いつの時代に於ても前兆的な若人の余暇の過し方は、単に無指導の自由な快楽主義的であるばかりでなく、曾て考えられていた常軌を逸脱してしまっているのであります。それは私たちがある場合に主張する新しい自由な道徳標準のためではなく、何か欠けているからであります。以前には赤燈の下においてさへ禁じられていたある種のダンスが今日普及して典型的なものとなっています。また私たちの定期採行物の多くがあるいはいかなる映画も頽廃的エロティックな傾向に走り、それが道徳的不信金銭的思惑から検閲を通過しているのであります。

彼は同様に不名誉は公私生活を通じて立法機関、司法機関を汚し、個人企業を汚しある場合には教会すらをも汚して浸透している事実を指摘しました。

彼はさらに私たちの共和国及びその他世界の国々において若し社会的政治的堕落があるとしたらそれは恐るべき道徳的思想の頽廃によるものであると確言しております。

これらすべてに対し私たちはどうしたらよいのでしょうか？

パウロがローマの獄中に在った時、テモテに次のような手紙を送りました。

〝御言を宣べ伝えなさい。ときが良くても、悪くても、それを励み、あくまでも寛容な心でよく教えて責め、戒め勧めなさい。人々が健全な教に耐えられなくなり、耳ざわりのよい話をしてもらおうとして自分勝手な好みにまかせて、教師たちを寄せ集め、そして、真理からは耳をそむけて、作り話の方にそれていくとき

が来るであろう〟（テモテへの第二の手紙四・二―四）

それは今日においても、丁度パウロがテモテに別れの手紙を書いたときと同様に、どこにおける役員、教師及び会員にとっても、〝御言を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを励み〟（これは熱心にまじめにしなさいということ）が大切なのであります。

今日この混とんたる世界に在っていかなる真の末日聖徒の心にも、何を宣べるべきか、疑問の余地はないはずです。その答えは白昼、雲もない青空の太陽のように明白であります。

一八三〇年にこの国及び世界の民に、各人が心の平和を見出し、その友と仲良く暮らせる神性な計画がもたらされたのであります。歴史始まって以来、すべての人間の理論と経験において人智は決して、これ程人類にとって実際的効果的な体系を考え出せなかったのであります。

簡単に言うてこの私たちの宣べるべき言葉は救いる福音の計画であります。

この偉大なる共和国の創設者たちは、この国の政治的及び経済的福祉に信仰を持っております。何となれば彼らは神に信仰を持っているからであります。今日人間の事項に関し神の配慮の必要を参照するときに人間の側において弁証的態度が見られるのは珍らしいことではありません。すでに指摘しましたように共産主義の成功は大体において国家を最高とする信念をもって神の信仰に置き代えたところに、よっているのであります。

けれども私は、時が良くても悪くても永遠の父なる神、御子イエス・キリスト聖霊を信ずる信仰を宣べ伝えなさいと、あなた方に申し上げます。

福音の計画の基本の宣言は個人の尊厳であります。すなわち神の業と栄光は、人に不死不滅と永遠の生命をもたらすことであります。（モーセの著一・三九）

この概念の下にいかなる政府、労働組合、その他の機関と雖も人の言論、礼拝仕事の権利を否定するなら、大きな瞞着であります。

小さな子供もイエスにとって神聖でありました。

〝そのように、これらの小さい者のひとりが滅びることは、天にいますあなたがたのみこころではない〟（マタイによる福音書一八・一四）単純な真理とはこの世で何を意味するでしょうか？

〝わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者の一人にしたのは、すなわち、わたしにしたのである〟（マタイによる福音書二五・四〇）そして今日主は計われました。〝人の値は神の前に大いなることを憶えよ〟（教義と聖約一八・一〇）

この神性な原則の正しい概念は、全人類の幸福と低宜に対する世の態度を変えるでありましょう。そして黄金律を、

〝だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ〟（マタイによる福音書七・一二参照）

活用するようになるでしょう。もしも人々が例えば富をそれ自体が目的でなく、人間の祝福と人間関係の改善の手段として蓄積して行ったらいかがに変るでしょうか。人は善かあるいは悪をなす相続した力を持っている真理を宣言しなさい。その中に彼は正を選んで救いを得るか、悪を選んで罪を犯すか自由意志を持っているのであります。

救いの計画は政府は人のために神の設立されたものであるという信念をも含んでいるということを説きなさい。人は国のために生れたのではありません。

いかなる政府も〝各個人に対し、良心の自由なる行使、財産の所有権とその管理、および生命の保護などを保証するごとき法律を制定し、且つこれを犯さることなく保持するにあらざれば〟（教義と聖約一三四・二）平和に存立することはできません。

誠実さと忠実さの必要を、まじめな一日の支払いのために、まじめな一日の働らきを為すように宣言しなさい。個人の内に人格が固まることが必要であると同様に、私たちの政府の永続と安定に政治の誠実さが不可欠なことを述べなさい。

〝われらは、正直、真実、貞潔、慈善、高徳なるべきこと、およびすべての人に善を行うべきを信ず。……もし何にても徳高きこと、好ましきこと、よき聞えあること、あるいは褒むべきことあらばわ

れらは、これらを、たずねもとむるものなり」（信仰箇条第十三条）

神は生きており、その愛する御子は人類の贖主であり、救主であることを、そして主はその名を付けている教会の頭に立っていることを、そして主は予言者ジョセフ・スミスがその協力者と共に天の使者から神性な権能を与えられて後、この権能によってこの地上で主を代表することを許された人々を導き霊感していることを宣言しなさい。

この生命の計画、この人生の生き方、この救いの計画を宣べる責任はすべての教会の会員の上に在りますが特に神権に聖任された人々の上にまた人々の指導者として僕として召された人の上に在ります。

この永遠の真理はイエスがそれを最初に宣言した時と同様に一九六六年度にも適用され、生命の続く限り人類の存する限り、それは人間の進歩と幸福に根本的なものとして留るでしょう。

いろいろわからないことの多い幼いころ私は先ず、私たちの主であり救主であるキリストに、肉親感を覚えました。私は主の愛と、神性な導きを知っております。主は罪なき人の子であります。主は「初めであり、終りであり、また生きている者である」（黙示録一・一八参照）

只主の教えに従うことによってのみ、人は幸福と平和を見出すことができるのであります。私たちの父はやさしく愛の天父であり、父を求めるすべての子に対し曾て在ったと同様に今日も熱心に祝福と導きを与えようとしておられるのであります。私はそれが真実であることを証します。

神よ、私たちすべての者をしてあなたの光の内に歩かせ、誤った世の不幸と罪と悲しみに陥ることなく、この現世にまた来世において喜びと平和と美を見出すことができるように助け給わるよう、へりくだってイエス・キリストの御名によってお祈り致します。アーメン

（三六回一般大会一九六六年十月六日の説教から）

《伝道部長会メッセージ》

MIAであいましょう

田中健治（第二副伝道部長）

「私たちの教会は神様のものです。神様とご一緒なら何時でもうれしいでしょう。私たちは一週間の内の一晩をMIAに集って、勉強やリクリエーションを楽しむのは当然です」これは教会でダンスがあると聞いて、はじめてMIAに出席し当惑した私への宣教師の答えでした。

二日間宣教師と生活を共にし、赤城山での祈にモルモン経の確証を得た心は、何でも受入れる気持になっていましたので、おそるおそるでしたけれども期待をもって、その木曜日の夜群馬会館の二階ホールへ行きました。その集会の二時間半の間に私は生涯忘れることのできないいくつかの幸神の鍵を頂いたのです。

第一の出来事は集会場に到着したときに起りました。当時の前橋支部は会員数一二名で、兄弟は三名を数えるだけ、MIAには宣教師のほかに一人の兄弟の出席もなく、求道者の学生が数名いただけでした。しかし部屋に入ったときに姉妹たちはニコニコしながら、自分から進んでその手をのばし、握手して歓迎してくれました。それが心配や不安を一ぺんに取り去ってしまったので、私は今でも先んで新しい方には特に熱意のこもった握手をしたいと思っています。比較的私が人見知りしないように見えるのなら、それはこのときから養われてきたものでしょう。

第二のできごとは、開会の歌のときに起りました。一人の姉妹が立って指揮の手を上げました。会衆の讃美歌を指揮者がリードする習慣は始めてでした。しかしなるほど、その方が歌いやすく合理的だなと思いました。音楽が好きで声は悪くても譜を見て歌うなら、そうひけはとらないと思って歌い出したのに、音の流れの早さと音符の高低の変化について行けず、ひばりのさえずりのように楽しげに歌う声に謙遜な感動を覚えました。その早い歌は四十八番「心のなかに光をもてば」でした。初見で歌えなかったことは、この歌の価値と姉妹たちの音楽的才能の高さを私に強く印象づけたので、その後モルモンは音楽の民であると聞いても素直にうなずけたのです。そしてはじめて暗記したこの歌は、私を常にはげましています。「神の光に道は明るく陰は飛去り闇も昼と変らん。

第三のできごとは開会の祈りのときに起りました。若い姉妹の祈りの言葉のなかに「神様から与えられ誠命を全部守ることができるように助けて下さい」。二十数年のキリスト教の勉強と生活で得たものは、ますます神から遠ざかって行く自分の心のみにくさを自覚したことと、どんなに力をつくしても罪から抜けられなくて、「神様、私はつまらない人間です。どうかキリストの名前と十字架にめんじて、なんとかお許し下さい」と祈ることが、人としての一番よい態度と考えていた私にとって、なんと明快で素直な祈だったことでしょう。幼ないものの声が働かすことのできない真理をのべていると感じたのでした。それ以来私の祈りから、消極的な態度や「てらい」等をぬぐいさることにしました。

第四のできごとは、レッスンのなかで起りました。やはり若い一人の姉妹がまっすぐに立って、一つも照れたり、おじけたりすることなく、はっきりとした主張を衆の前でしました。「記録を正しくつけることは人生を豊かにします。それは自分を眺めることができ、向上への具体的な指導を示します。教会は神様の教会ですから正しい記録をつけます。大変正確につけられています。福千年の終りにそれらはチェックされ、一人一人の価値は記録によって証明されます。みなさんもまた、自分のために、子供や孫たちのためによい日記をつけて下さい。今、日記をつけてない人は手を上げてください」私は日記の価値がこのように拡大されたのに驚きながら手をあげて、その若い教師を尊敬することができました。こんな若さで、どうしてそんな大切な真理に触れられるのか、という疑問はやがてレッスンプランが本部から送られてくることを知るに及んで氷解しましたが、それでもレッスンの時間の重要さと、教師への敬意はますます強まったのです。週日の間に一晩のよい機会をのがすことなく、出席したいものだと当時二十八才の胸は決心しました。

第五のできごとは、ダンスの時間に起

りました。フォークダンスのコロブチカが始まりました。ダンスなど見たこともなかった私ができるはずがないから輪の外に出てみていました。すると、すぐに「ダンスはやらなければできるようにならないヨ」と声がかかってきました。なるほどと思って思い切って加わったのに右を向けば、みんなこちらを向き、ついて行くと戻ってくる姉妹と衝突するという状態で散々でした。それでもあきらめずに一生懸命に動いてきました。そのときです。輪に加わらないで見ていた一人の姉妹が私の手を取りました。「はじめてで大変でしょう、でもすぐに覚えますヨ」と私と向い合った足を動かしてくださいと教えてくれはじめました。

彼女は長い間持病のために養生をされそれから三年たって立派に病気との戦いに勝ち主に召された早川雅生姉妹でした。彼女は自分の病気の苦しさも忘れて一緒に踊ってくださいました。ようやく音楽について踊れるようになったとき、その時間は終りました。彼女は私がありがとうという前に「とても楽しく踊れてありがとう」と私にかたい握手をしてくれました。与えることによって得る幸神のサンプルをそこで見た私は、また家に帰っても心が軽くなっているのを見出しました。

田中兄弟の一家
左から清江姉妹、信彦兄弟、すみれ姉妹
田中健治兄弟、明彦兄弟

後日ブリガムヤング大管長が話された言葉、「ダンスはこの世の苦労をカカトから取り去ってくれるよりリクリエーションである」を読んで熱心なダンスの支持者となるべく決心をしました。

一八六九年十一月二十八日、ブリガムヤング大管長によって組織され、多くの人々がこのプログラムの恩恵に浴しはじめてから、このプログラムは単に教会のなかのみならず、世界の知恵ある人々からも注目され、多くの団体でそのような催物が持たれるようになりました。一週間をつきつめた生活で送り日曜日心を堅くして安息日を迎えるだけでは円満な神様の子供になれません。ＭＩＡに出席できない人はどんな形で絶対に必要な楽しみや芸術的な理解を他の誘惑のない正しい環境で受けられるでしょうか。

私はＭＩＡの記録を見たり、ＭＩＡについていろいろな人と語り合うとき、がっかりすることがあります。それは、ＭＩＡの果す役割を軽視しているか、無視しているのではないかと思われる言葉を聞くからです。

このＭＩＡは以上述べてきましたような大切なプログラムです。このプログラムにはバプテスマを受けたら万難を排して出席するように努力しましょう。またこのプログラムの準備に当る兄弟姉妹、そして指導者の方々は、他の組織の活動を通しては決して得られない祝福を得られることをよく自覚し、更に充実できるようにつとめてください。本当のモルモンはＭＩＡを大切にします。そして、次のことを提案したいと思います。

一、親切で明るい自分をみんなに見せてください。

二、宗教の実際的な生活への活用方法を常に祈り求め、学び、実行してください。

三、御霊の助けによって準備されたレッスンを聖霊によって教え、学んでください。

四、楽しく大声で歌い、喜こんで踊りそして、それを理解し、身につけ、他の人にもその中に入るように推めましょう。そして円満なモルモンとして成長してください。

幸いに準備されているガールスプログラムの賞や、アロン神権の業績証明書を得るように、二十才以下の人々は努力してください。そして年を取られた方々もいつまでも若々しく、そして笑顔を保つように、ＭＩＡに集われることを望みます。

昨夜私がＭＩＡに行くとき、息子がいいました。「今度、いつかＭＩＡに連れていってよ、どうしてまだ行けないの」すると、下の二人も一緒にいいました。「ねえ僕も私も」。そこでなぜ行きたいのかと聞きますと「だってパパが行くのだもの」という答がありました。私は姉妹と顔を見合せて、楽しい光景を思い浮かべておりました。星がきらめいている夜空に、支部の建物が白く輝いています。その横の坂道をみんなで歌を口ずさんで、レッスンのことを話し合ったりして帰ります。そして彼らは父や母になり、またその子供たちが早くその日がくることを思いつつ、全ての会員の方々の上に神様の用意してくださった祝福があることを祈りつつ筆をおきます。

「ＭＩＡで合いましょう。」

に於けるMIAの計画

Aにあなたの若い力を

わたくしたちはＭＩＡに参加することによって何を得ることができるだろうか。この質問に簡単に答えてくれる計画が、今伝道部ＭＩＡ会長会で立てられている。一つはガールスプログラムの受賞話画に関するもので、もう一つはスポーツに関する計画である。そこで今回特集記事として、この二つの計画を取りあげてみた。

《特集その1》

ＭＩＡスポーツのあり方

佐藤襄二（伝道部ＹＭＭＩＡ会長）

親愛なる兄弟、姉妹の皆さん、ＭＩＡ集会に参加しておりますか。長かった冬もようやく終り、春の光が明るさを増してまいりました。いよいよＭＩＡ活動のシーズンに入ります。今月号はＭＩＡを中心とした特集号なので、ＭＩＡスポーツについて執筆してみました。

ＭＩＡのスポーツ（体育）プログラムは全教会の若人達の楽しいグループ活動を通して肉体的、精神的な発達を促進するために準備されています。バスケットボール、バレーボール、ソフトボール、あるいはゴルフ等をよく準備され、計画されたスケジュールのもとにトーナメント形式でプレーすることは極めて好ましいことであります。特に、この教会では世界的な規模で国際試合をしており、大勢の参加者と高い水準を誇る試合は注目の的となっております。

目的

望ましい人格と福音に対する強い証詞を高揚することを目的とすることは勿論のことでありますが、もう少し具体的に説明しますと、

1. 若い青年男女が楽しみとしている分野（スポーツ）を通してＭＩＡ活動に参加させること。
2. 彼等に自己訓練、チームプレー、スポーツマン精神の何たることを理解させ、教養すること。
3. スポーツ参加者が教会の健康の標準に基いて生活し、教会人と呼ばれるのにふさわしい立派で健全な肉体を持てるように手助けをすること。
4. 力強い、しかし健全な体育活動や競技を通して組織のあり方がどうあるべきであるかを知ること。

以上、四つにしぼることが出来る。単に楽しみ、相手方チームを負かしたことによって得られる本能的な優越感は大切ではあるが、二義的なものである。前述した四点のうち、どれひとつとってみても日頃教会で教えている福音の実践の手本なのである。

《特集》伝道部

MIA

スポーツの種目

スポーツ（体育）プログラムの名のもとに開かれる活動にはいろいろとあり、非常にバラエティーに富んでいる。何れにしてもそのプログラムでは個人的な技術、技能によるデモンストレーションよりもチームプレー、多数参加（マスゲーム）によってスポーツや活動を鼓舞するものでなければならない。また、誰にも気軽に出来、経済的な要因をあまり含まないのを選ぶべきです。伝道部ＭＩＡで選んだ種目は次の通りである。

バレーボール　ゴルフ
バスケットボール　テニス
ソフトボール（野球）ピンポン
フットボール（ラグビー）
バドミントン　サッカー
水泳　ホッケー
アイスホッケー　スキー
アイススケート　フェンシング

これ等のスポーツは何れも正しいルール、または主催者の定めた規則に従って行われなければならない。大多数のスポーツのルールは国際的に定められているが、そのうちのいくつかははっきりと決まっていないのもある。こうした場合には支部や地方部のスポーツ委員とＭＩＡのそれぞれの役員とが相談し、その国の習慣に合わせるべきである。それでも尚混乱の生ずる恐れがあるときには伝道部ＭＩＡに相談して欲しい。

種目の選び方

支部なり地方部が一年間のスポーツプログラムを組むときには次の諸点に留意して欲しい。

1. 一般会員の興味の深さ。

2. 望ましい指導力があるかどうか。
3. 利用し得る施設があるかどうか。
4. 支部間、地方部間の距離。
5. 参加者の推定人数。
6. トーナメントが出来るかどうか。

一年間に消化し切れない程のプログラムを組むよりも、二、三種目の大きなプログラムを完全に行なった方がはるかに賢明である。

資格と標準

スポーツ参加者はＭＩＡは勿論、若し教会員ならば聖餐式や神権会、日曜学校に出席する義務がある。霊性はあらゆる体育的な活動にも保授されなければならない。主の祝福は祈りを通してもたらされ、スポーツマン精神を高い水準に保たせ得るのである。この理由からも分るように優勝よりも霊的な雰囲気に含まれたスポーツマン精神の方が教会の標準に一致するが故に尊いのである。

《お知らせ》

全国ＭＩＡスポーツ大会

昭和三十八年、三十九年と二年連続してユースコンフェレンス（若人の集い）を開催して以来、本伝道部では全国的な規模の集会を開催しておりませんでしたが、今年の七月末にスポーツ大会を開くことに決定しましたので御報告致します。

名称　第一回全国ＭＩＡスポーツ大会
開催地　東京地区
開催日　七月二十八日（金）
　　七月二十九日（土）
種目　ピンポン　一チーム編成
　　男子シングル
　　男子ダブルス
　　女子シングル
　　女子ダブルス
　　混合

同一選手は二種目以上に出場しても差し支えない。従って一チーム最低四名、最高八名となる。希望としてはコーチ（選手を兼任してもよい）を含め最低五名で編成して欲しい。

選抜チーム

各地方部の代表チームの資格で参加する。代表チームはその地方部の独自の選抜方法で選ばれるが、実際に地方部内でのトーナメントによって決めるのが望ましい。

試合の方法

全てトーナメント形式による勝ち抜き戦。第一試合の相手は当日決定する。

参加選手の資格

1. ＭＩＡの会員として登録され、大会の前日までに六ケ月以上経過していること。
2. ＭＩＡの諸集会の出席率が大会の前六ケ月間を平均して七十五パーセント以上であること。
3. 教会の会員ならば、神権会、聖餐式、日曜学校の出席率が大会の前六ケ月間を平均して七十五パーセント以上であること。
4. その他、教会の戒めをよく守り、支部長の推薦を受けること。

表彰

優勝者及び優勝チームに対し、賞状賞品を授与する。

また、来年開催予定のアジアスポーツ大会の選手としての資格を得る。

その他

その他の細かい問題に就てはＭＩＡの役員にたずねて下さい。

エキジビジョン

地方部内または地方部間の親善試合としてバレーボールとバスケットボールを行ないます。詳細はＭＩＡ役員にお聞き下さい。

スポーツ大会の目的

本伝道部ＭＩＡの諸活動が進歩発展していくにしたがい、質的な向上も著しく、目を見張らせるものがあります。今まではどちらかと云うと「参加する」ことに意義を置いておりましたが、今回のスポーツ大会は前述した通りに一定の参加資格さえ充分に満足しておれば技術的に卓越したＭＩＡ会員チーム同志の血と汗の闘いであり、正しい秩序あるルールのもとに正々堂々とファイトする若人のぶつかり合いである。不屈の精神力とフェアプレーを通して得られる友情―兄弟愛―を培うよう日々努力して下さるように心よりお祈り致して居ります。

特集　ＭＩＡプログラム

ＭＩＡスポーツの思い出

島田邦男（伝道部ＹＭＭＩＡ副会長）

今から六年程前、武蔵野にあった東京西支部の困難。会員数が減って、閉鎖されそうになった時、北支部から四人、中央支部より一人、計五人が福田真兄弟を支部長として派遣され、西支部の再建が始まった。（その中の一人が自分）

小生、早速ＭＩＡの会長に任命された（ＭＩＡの責任は始めての経験）

当時、ＭＩＡの出席者は会員が男一人、女一人と四人の宣教師あとは全部求道者で、しかも、英語目当ての女高生がほとんどであった。

こういう手のつけられない状態と悪戦苦闘、福音を教え、ダンスを教え、短かい活動で話をし、果ては音楽指揮までをした。

それから二ケ月程して地方部主催のバレーボール大会があった。

六人制で、女性を一名以上参加させること。

当時の西支部には、スポーツをしようなんて、そう云う覇気のある若人はいなかった。ましてや女性に至っては皆無である。

とにかく、何んとか男五人だけは集めたが、どうしても女性がいない。

仕方ないので五人で戦うことにした。

予戦で、古巣の北支部と当り、善戦の末、やっと勝った。初めての勝利、何んとも云えない気持。チームワークの勝利と自負していた。

しかし次の試合で善戦空しく、敗れ去った。

それからまた二ケ月程して、地方部主催のフォークダンス・コンテストがあった。

これにはどうしても、女性に参加してもらわないと出来ないので、全く困ってしまった。

姉妹はたった一人しかない。人海戦術の効あって、やっと七組で、戦いに挑んだ。（勿論週に四回位集まって練習した）

所が、北支部が八組、後の支部は四組とか三組、果ては棄権してしまう云う始末何んとだらしない事か、西支部を見ろ!!と云いたかった。

競技が全部終って、優勝は北か西か。西支部がチョット有利と云う情報が入る又北支部に勝ったか？（内心ワクワク）

そのうちに、会長の佐藤襄二兄弟より発表があった。

第一位北支部、第二位……

第四位西支部!!（ガクン）

これには全く、ショックだった。

当時求道者であった、若い女学生達が可愛想でならなかった。

折角新しい人達を集めて、一生懸命努力したにもかかわらず、それが認められず、非常に残念だった。口惜しかった。（ＭＩＡの会長をやめてしまおうと思った。しかし説得されて駄目）

そのうちにまた今度は卓球大会。

西支部が絶対に強いと、思われていたのであるが、いざ試合になってみると、高校、大学の選手に出られ、敢えなくもまた敗退!!　どうも面白くない。

（こんな事で砕けたらだめだ）

試合がある度毎に、皆んなで全精力で頑張った。

だんだん選手には不足しなくなった。お蔭で、小生の出る幕が少なくなった。

西支部のＭＩＡも後進に譲って、地方部のＭＩＡの役員になった。

野球だけは、まだまだ若いもんに、負けない積りだったから、早速、玉川のグランドを借りて、女性も混じえての、ソフト・ボール大会を開いた。

小生も西支部の選手として出場、ゆうゆう、優勝。又バレーボールも優勝、又バスケットボールも優勝、狭い支部長会の部屋に、沢山の優勝カップが並んだ。僅か、二年たらずで、会員数も、ぐんと増え、スポーツに於いても、西支部黄金時代であった。

（それから、後の事は頁数の都合上書かない）

スポーツが強くて、盛んな支部は、ＭＩＡも日曜日にも活気があって、全ての組織がうまく行っていると云ってもよいだろう。

毎月、伝道部の書記より、発表される統計よりも、全国スポーツ大会を開いてその成果を見た方が、もっと良く、支部の実状を知ることが出来ると思う。

今年、及び来年の全国ＭＩＡスポーツ大会に期待する。

《特集その2》

ガールズ・プログラムを成功させるために

佐藤栄子（伝道部ＹＷＭＩＡ会長）

「ガールズ・プログラム」がどのようなものであるかあなたは御存知ですか？

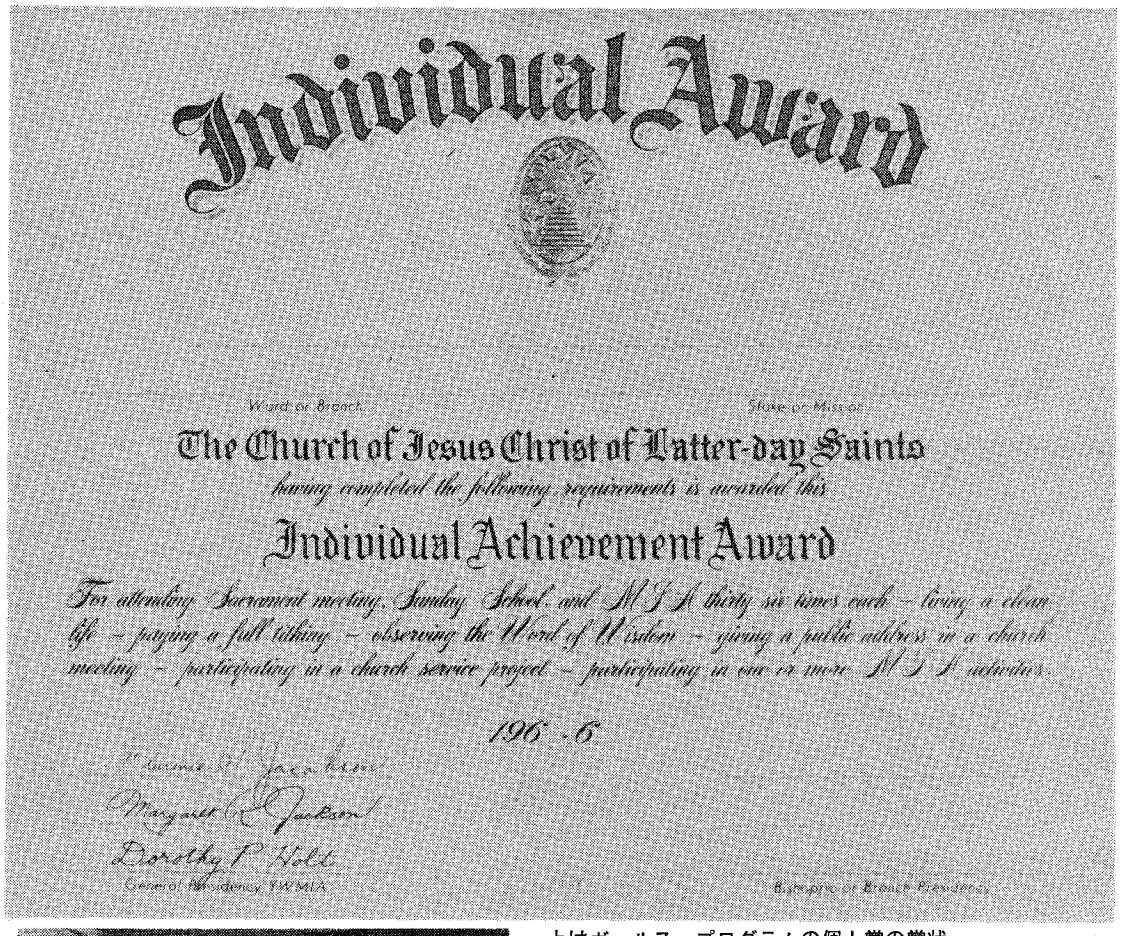
貴女は、その素晴しいプログラムに進んで参加している女子の一人ですか？

貴女は、少女達が一人でも多く、この輝やかしい賞を受けることが出来るために手助をしてあげている姉妹の一人ですか？

アロン神権者達へ与えられる「業績証明書」と同じように、このガールズ・プログラムの中には数々の個人資格があります。このプログラムには12才から19才までの未婚の女子が参加する資格を持って居ります。勿論、バプテスをまだ受けていない少女でも参加することが出来ます。その歴史は一九五〇年六月にＹＷＭＩＡ中央管理局より公式に発表され、各ステーキ部や伝道部で行っているものです。少女達に教会の集会に対して興味を持たせ、奉仕や活動に参加させ、日々の生活の中に福音の原則を取り入れる能力を与え、そして自分自身で確かな証詞を摑むことを目的とし、ガールズ・プログラムの手引きに書かれたことばによれば「毎日の努力が立派な女性としてのゴール、神殿結婚へ導く階段となり、気立てのやさしい、親切な妻として、また母として、神権者の共同体としての価値ある女性となる。このことこそ、ガールズ・プログラム活動に与えられた責任なのである。」

今、貴女が持っているガールズ・プログラム個人賞受賞資格カードを、もういちど見なおしてみましょう。次のようにかかれていることでしょう。

1. 36回聖餐式に出席する。
2. 36回日曜学校に出席する。
3. 36回ＭＩＡに出席する。
4. 清潔な生活を送る。
5. 什分の一の律法を完全に守る。
6. 智恵の言葉を守る。
7. 教会の一般的な集会に於いてよく準備された霊的な話をする。（クラスに於いてではない）
8. 奉仕の計画に参加する（最低10時間）



Individual Award

Ward or Branch　　State or Mission

The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints

having completed the following requirements is awarded this

Individual Achievement Award

For attending Sacrament meeting, Sunday School, and M.I.A. thirty six times each – living a clean life – paying a full tithing – observing the Word of Wisdom – giving a public address in a church meeting – participating in a church service project – participating in one or more M.I.A. activities.

1966

General Presidency, YM-MIA　　Bishopric or Branch Presidency

上はガールス・プログラムの個人賞の賞状

左はＭＩＡ中央管理局会長会

ＹＭ会長	Ｇ・カルロス・スミスＪｒ兄弟
ＹＷ会長	フローレンス・Ｓ・ジャコブソン姉妹
ＹＷ第一副会長	マーガレット・Ｒ・ジャクソン姉妹
ＹＭ第一副会長	マーウイン・Ｊ・アストン兄弟
ＹＭ第二副会長	カール・Ｗ・ビュフナー兄弟
ＹＷ第二副会長	ドロシー・Ｐ・オールツ姉妹

9. ＭＩＡの活動（ハイキング・キャンピング、ロードショー、演劇、歌、器楽演奏、ソフトボール、バスケットボール等）に参加する。

昨年の九月からスタートしたこのプログラムに、6ケ月過ぎた今、貴女はどれくらい熱心に、どれ程精力的に、どのように思いをつくして参加したかこりかえってみて下さい。

テモテ書の中に「なんぢ年若きをもて人に軽んぜらるな、反って言にも、行状にも、愛にも、信仰にも、潔にも、信者の模範となれ」と言う言葉があります。

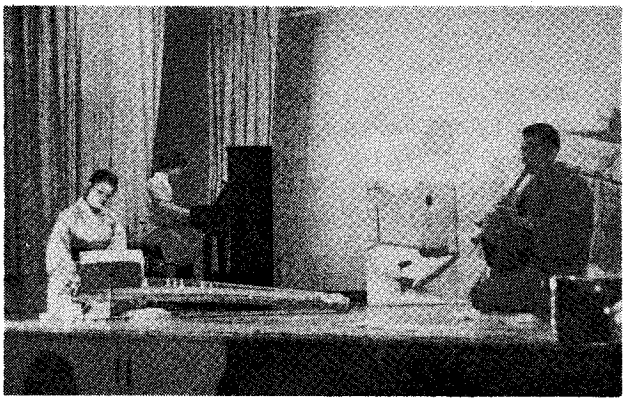
私は、昔この聖句がとっても好きでした。何故なら私が若かったからです。今でもこの聖句は好きです。何故なら、今も私は若いと思っているからです。自分が若いからと言って決して他人に軽ぜらるなと言うことは、心して軽卒な態度をとるなと言うことであり、自分よりも、年とっている人に負けずに、理にも、またその行為にも、他人に与える愛にも、そして、信仰にも、清潔さにも、主を信ずる者として恥かしくない聖徒になりなさい。と言われた主の言葉が私を力づけているのです。若いと言うことは、その力強い行動力があるからでしょうし、つかれを知らぬ肉体があるからでしょう。それに加えて思慮の深さがあり、限りなく湧き出ずる愛があったら、何と素晴しいことでしょう。今、ＭＩＡの若い女子の皆さんに与えられたこのプログラムに

特集　ＭＩＡプログラム

進んでチャレンジしてみようではありませんか。支部に行って、ガールズ・プログラムの会員が胸にそのしるしや名札をつけているのを見ると本当に素晴しい人達だと思うと同時に羨やましくさえ思えるのです。支部にあって、この少女達の先輩にあたる兄弟姉妹は、どうぞ彼女達が活発に参加出来るように手伝ってあげて頂きたいと思います。

ガールスプログラムのパーティー

ＭＩＡのダンスパーティー



さて、貴方の支部のガールズ・プログラムの出席状況を次の表によって確かめて下さい。表の中で一番右の項の「支部長との相談会」は必ず月一回開かなければならないのです。しかし、開かれていない支部がほとんどです。大切な会ですので、開くようにして下さい。その中で支部内の少女達一人一人の出席状況や、集会に出席してない少女の家庭訪問や、種々の個人的な問題の解決や、助けを話し合い、移動先の確認や、話や活動の機会が平等に与えられているかどうかをチェツクしたりします。また、ガールス・プログラムの活動計画や奉仕の計画がこの会に提出され、支部長の承認が与えられるわけです。

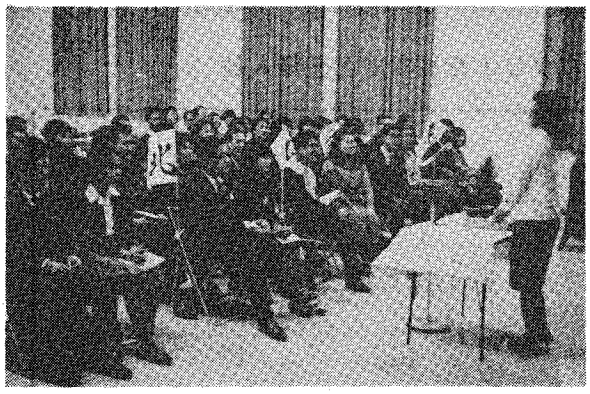
ＹＷＭＩＡの会長は、ガールズ・プログラムに参加している少女達の家庭も、よく知ることが必要です。そして彼女達に無理でないスケジュールを組むことが大切なことです。彼女等の両親がこの計画をよく知り、娘がこの計画に参加していることを承認して下さるように、よく手紙を書いたり、家庭訪問して「ガールズ・プログラム」の説明をして下さい。それ等の結果、毎月の出席率が良くなって上昇カーブを描けば、貴女の支部のガールズ・プログラムは成功していることになるし、その目的も果していることになるでしょう。

主は為さんとしている者の上に導きを与え、主の道をそなえて、その災いを取り去り給うことを知っています。如何に為しがたく思えることの上にも、主の助けがあれば為しえないことの無いことを知っています。主は私達に力を与え給うことを心より証詞します。

北部極東伝道部ガールズ・プログラム参加支部と登録人数

	支部名	登録人数	出席率（%）			支部長との相談会
			Sac.	S. S	MIA	
	旭川支部	17	24	24	28	×
	小樽支部	10	12	14	3	×
	札幌支部	6	25	25	16.6	×
	室蘭支部	12	16	16	16	×
	東京中央支部	11	67	67	58	○
	東京東支部	26	33.9	34.7	30	×
	東京西支部	35	11	8	16	○
	東京南支部	10	47	47	40	
	東京北支部	40	27	27	24.3	○
	横浜支部	29	30.8	28.8	18	×
*	群馬支部	6				
	仙台支部	7	19.7	23.2	21.4	×
	新潟支部	18	6	6	9	×
*	山形支部	11				
	阿倍野支部	23	25	23	20.6	
	岡町支部	18	52.7	51	30.6	×
	西ノ宮支部	13	14	14	8	○
*	三ノ宮支部	1				
	名古屋支部	12	27.5	29.2	16.7	×
	京都支部	19	7	7	15	×
	広島支部	16	20.6	19	19	
	岡山支部	4	25	25	2	×
	福岡支部	14	29	29	21	
*	那覇支部	55				
*	普天間支部	28				

登録人数は1月現在です。
出席率は12月の月間レポートによります。
「*」印は昨年9月からレポートを提出していない支部です。
支部長との相談会は開いた支部「○」開かなかった支部「×」です。
ガールズプログラムに参加していない支部は下記の4支部
甲府支部　松本支部　金沢支部　柳井支部



《特集その3》―東中央地方部京浜地区の活動―

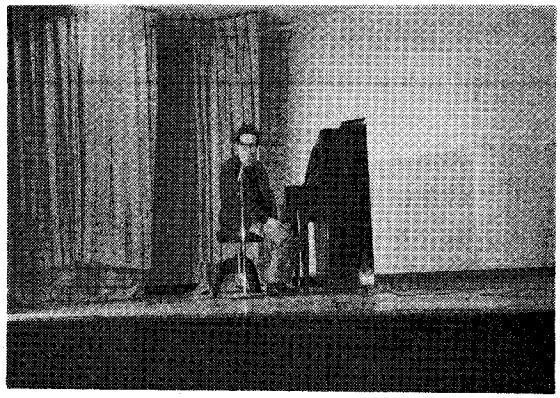
神様のところへ持って行かれるものを得よう

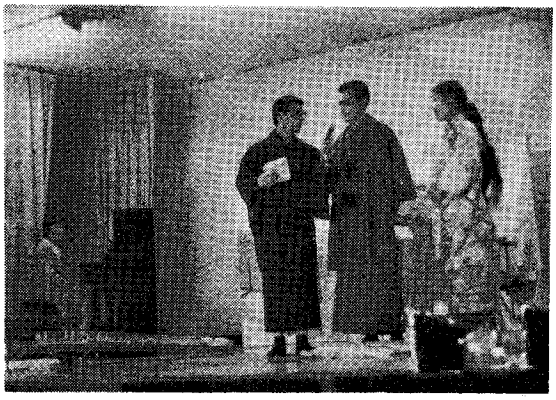
第一回ガールズプログラム　アロン神権プログラム合同パーティ開かれる

一月七日の夕べ、京浜地区アロン神権プログラム参加者約30名、ガールズプログラム参加者30名、他役員20名、総計約80名以上の若人をもって合同パーティーが開かれました。「あなたの若い日にあなたの造り主を覚えよ」（伝道の書12・1）ステージにはこのテーマがかかげられ、参加者はそれぞれ自分の支部のプラカードのもとに集りました。「ここに立ちまして強く感じていることは、皆さんは本当に若くていいですね。ということです」と伝道部ＹＷ会長佐藤栄子姉妹のお話を筆頭に約一時間にわたって、各支部アロン神権者およびガールズ代表12名が二分半のお話を霊的雰囲気の中で静かに行ないました。各代表者はそれぞれの経験から、このプログラムに参加し、チャレンジして得た大きな進歩と証詞とを神様に感謝していました。伝道部アロン神権委員山田義郎兄弟のお話を最後にプログラムはフォークソングに移りました。

「君の行く道は希望へと続く、空にまた陽がのぼるとき……」ギター片手に歌うは伊藤哲司地方部ＹＭ会長と北支部中村倫子姉妹、二人を囲んでぐるっと二重の輪が出来ました。「若者はまた歩きはじめる、空にまた……」声を合わせて、心を合わせて歌っている顔、顔、愛らしい美しい、生々とした、ユーモラスな、健全な、凛々しい神の子供たちよ。……「さあ、美味しいクッキーをどうぞ」地方部ＹＷ役員がエプロンをかけてサービスに廻りました。プログラムは進みフォークダンスに変りました。北支部辰己一郎兄弟と安井芳子姉妹のコールによってイスラエルのマイムマイムから始まり、雰囲気はいっぺんに若さと踊りのエネルギーでふくれあがりました。続いてメキシカンワルツ、パートナーさがしゲームと続き、約一時間歌って踊って皆んな一緒に楽しみました。そろそろ閉会です。柏倉仁地方部長の激励のご挨拶に続いて田中健治第二副伝道部長のお話がありました。「さきほど佐藤栄子姉妹は若いときに受賞したバッヂを見せてお話して下さいましたが、どうぞ、若いときに神様のところへ持って行かれるものを得ようではありませんか」そして、神よまた会うまで……と歌って閉会になりました。

地方にいらっしゃる兄弟姉妹、また、





出席出来なかった兄弟姉妹、この会は第二、第三回と開かれますので、次の機会には皆んなで一緒に集りましょう。

私たちが神様の愛で結ばれていることを深く感謝申し上げます。

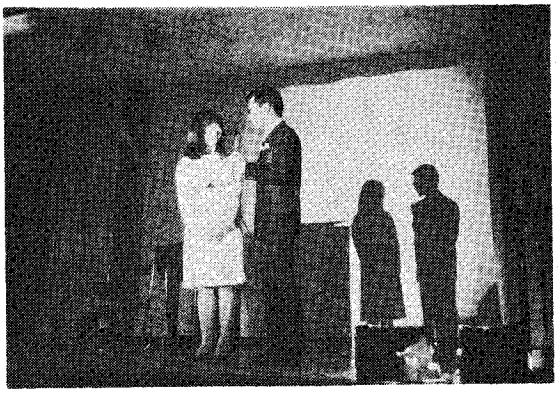
「人がその力以上のことをするのはぜひ必要ではない。しかし褒美を得るために勉め励むのは必要なことである。」

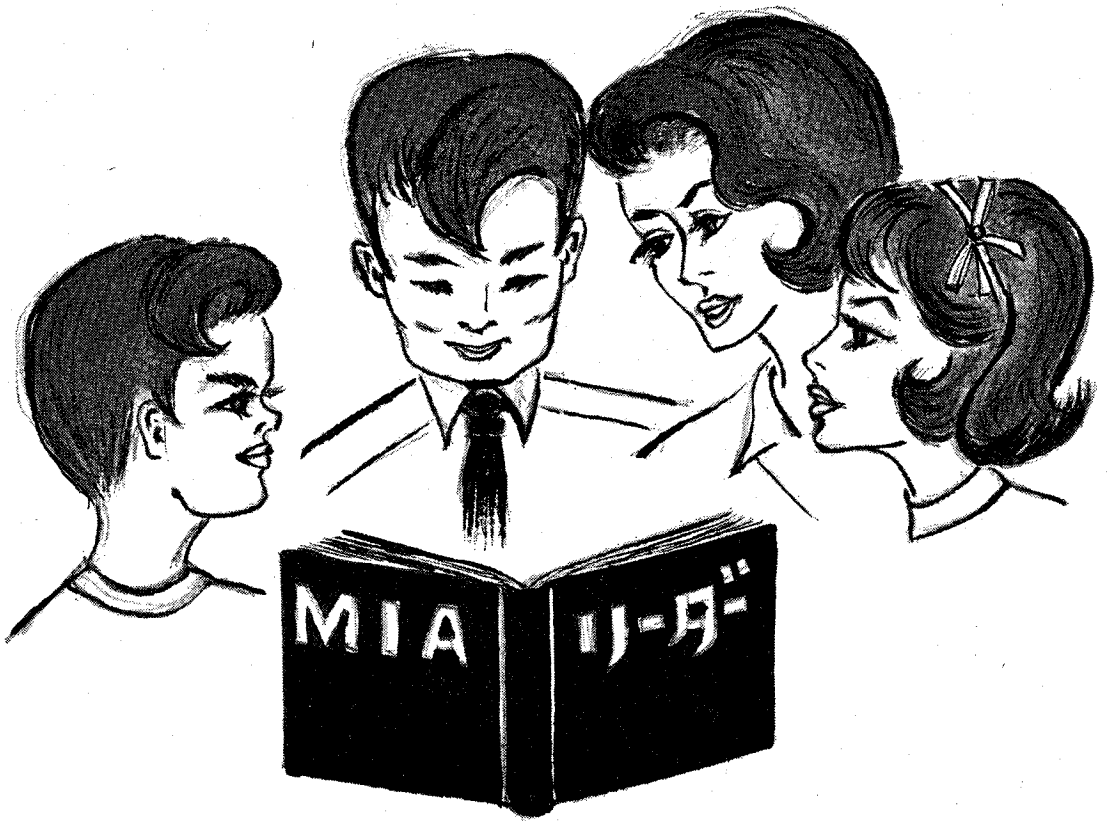
（モーサヤ第4・27）

京浜地区音楽会の感想

ブリガム・ヤング大管長は「才能を持ちながらそれをかくしている人は怠情な僕と呼ばれるであろう。毎日自己の所有する能力を増大改良せしめるようにつとめよ」と神様から誰にでも与えられている才能……音楽的な才能を与えられ、そしてその個人の努力によって得たすばらしい兄弟姉妹の演技を、二月二十五日、西支部に於いて「京浜地区音楽会」でみることができました。音楽会のあのクラシックな雰囲気の中に司会者のユーモアによって、静かな会場にさわやかな笑いをさそいながら、プログラムはピアノ独奏、イタリア語による独唱とすすめられていきました。教会外のステージにも何回もでた経験のある兄弟姉妹が多くステージマナーもたいへんすばらしく、しぜんに会場の兄弟姉妹も戸口の出入り、拍手の仕方などのエチケットを守る雰囲気をだしていました。ピアノ独奏はクラシック・ジャズピアノ等でしたが曲目に合わせての照明はとても効果をだしていました。教会では始めての試みである。ピアノ、尺八、琴の合奏は金色で描かれた屏風を背景に着物をきた兄弟姉妹の熱演はさながら私たちを平安時代の貴族生活の中に引きこんでいました。

ラストは三十名による合唱でもりあげ、その後フィナレーは「春よ来い」の童謡を全員で歌いながら、ハアイアンをして下さった兄弟姉妹から出演者や各支部長さんにレイがかけられ、なごやかな雰囲気の中に幕がおりました。本当にみごとな兄弟姉妹の演技によって私たちは「努力」という意味を感じたにちがいありません。兄弟姉妹の皆様、ＭＩＡの活動のクラスにおいて、神様から与えられた才能を見いだし、進歩する機会がありますようお祈りしています。





ＭＩＡの精神

親愛なる兄弟、姉妹の皆さん、こんにちは。今月号には少しＭＩＡの精神に於て一緒に考えてみようではありませんか。既刊の「ＭＩＡ手引」の一ページにはＭＩＡの組織者であるヤング大管長の言葉が載っており、私たちを強く励まして呉れる。「我々は諸君らが相互発達のため、協会を組織するよう要請する…」

皆さんもご存知のように、また日々実践されているように、私たちはお互いに助け合い、磨き合い、また競い合うことによって現在の知識や能力をより高い地位にまで持ち上げなくてはならない。その方法や過程には個人差、環境差等によってさまざまな選び得る道があるが、優れた霊の持ち主である予言者がその最適な手段を私たちに提供されたのである。それがＭＩＡの活用なのである。

小生が本伝道部ＭＩＡの責任者に任命されて、はやくも六年を経過したが、指導力の乏しさ、指導方法の拙劣さとが相まって各地方部ＭＩＡに多大なご迷惑をお掛け致していることを誠に申し訳なく思っておりますが、同時にＭＩＡの会員ひとり、ひとりの上にも大きな責任があることを反省したい。皆さんは磁石の性質をご存知でしょう。若し、ここに一つの強力な磁石があったとしよう。この磁石のまわりに集まった鉄片は親の磁石に吸い付くと同時に自分も磁石化して他の鉄片を吸い寄せる。そして最後にはもとの親の磁石から一番最後にくっついた磁石までがひとつの統一のとれた磁場の中にあってより強力な磁石となる。最初の磁石は古い活発な会員であり、子の磁石は新しい会員である。若し、親の磁石が怠情によって錆を生じたり、不従順によって銅や鉛のような混り物が入ったらどうなるであろうか。

イエス・キリストの教えの本義は「愛の実践」であり、ＭＩＡがその場なのである。相互信頼、相互扶助、相互発達は兄弟、姉妹の人間的なつながりによって生まれてくる結果なのである。これはあたかも愛の磁石線によって結ばれ、次々と磁石化されるように影響を及ぼしていくものなのである。

古い会員たちは「ＭＩＡはいつも同じことばかりをやっていて進歩がない」とよくこぼす。この慨歎こそ、己れの進歩のなさの悲しみと観るべきである。何故なら、神の計画（教会の活動）はその人その時期、その時代にふさわしいように作られ、確実に遂行されていくからである。キリストのたとえ話にある「タラントの話」はまさに真理であり不変の原理なのである。進歩しないと言うことは他の万物がときの経過と共に進歩発展していく速度、状態から眺めたら退歩なのであり、現在持てる才能すら失われてしまうのである。ＭＩＡは楽しいと心からそう

思えるとき、その人は本当に楽しんでおり、進歩も速い。人生の一刻、一刻を楽しみ、有意義に過せたら何と幸神であろうか。ＭＩＡに限らず、教会の諸活動を通じて進歩の方法、発達の技術を身に付けることが大切であり、これが「ＭＩＡの精神」の昇華された具体的な目的なのである。

（ＹＭＭＩＡ会長　佐藤襄二）

月間レポート作成上の注意

月間レポート作成上の諸注意を少し申し上げます。

一、登録人員は会員、非会員共に三回以上、四回目から登録され、会員の場合は三年以上、非会員の場合は一年以上来なかったときはずされます。

二、訪問者欄には、他支部から来た人、一～三回迄の人、地方部等の訪問者、十二才以下の人等を記入して下さい。

三、プログラム通りに行なわれた回数とはカレンダー通りに行なわれた回数を記入のこと。

例えば、カレンダーに一般活動とあるのに準備の都合で来週に延ばすというときには、二回はカレンダー通りに行なっていません。このようにプログラムが入れ変ってもプログラム通りには行なったことにはなりません。

四、クラスの回数は、プログラム通りに行なった回数に関係なく一ケ月の間に何回クラスを行なったかということですので一ケ月間の内に行なった回数を記入のこと。

五、活動面の方は、すべて一ケ月間の合計数字を記入して下さい。平均数字ではありませんので注意すること。

また、すべての活動にあてはまることですが、支部または、地方部等で行なわれる催し物のために、前もってよく準備されることと思いますが、その準備のために行われる集会が、会長会から承認され、祈りによって始まり祈りによって終える会であったならすべて記入することが出来ます。そのようなときは裏面に説明もつけ加えておいて下さい。

また、演劇や、音楽会等のときは、照明、衣裳、メイクアップ、美術等のスタッフは、演劇者、演奏者と共にその数の中に記入し、即興劇、コント等は二幕以上になっても一幕物、寸劇の方に含まれ、一幕物でも大作になる場合は、二幕以上、大作の方に含まれます。音楽会とあるのは、コーラス、レコード鑑賞、楽器等すべて音楽に関係あるものが含まれます。これは、一般活動の音楽会だけではありません。

また、活動内容のまぎらわしいもの、印刷されていないものについてはすべて裏面に記入して下さい。

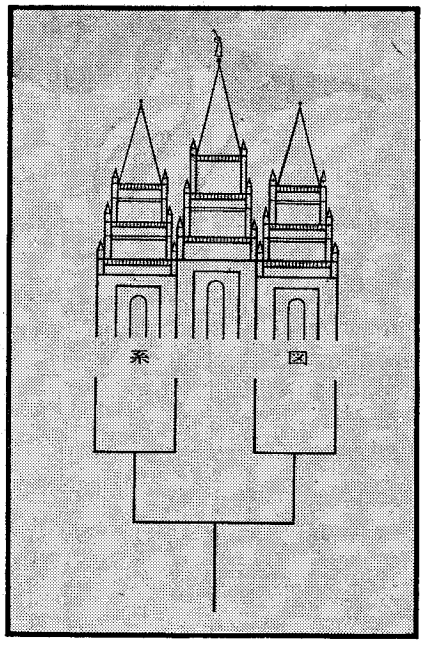
また、一般活動等で時間が残ったらダンスをしましょう。音楽をしましょうといった場合には、記入数には入りませんのでご注意願います。

以上記録のことについて少し記しましたが、間違いのないように、翌月七日迄に伝道部ＭＩＡ事務局（東京都練馬区春日町四丁目二七番一六号「住所変更がありましたのでご注意下さい」）宛にお送り下さい。南麻布の伝道本部に送っている支部が二、三ありますが、月間レポート他すべてＭＩＡに関係のあるものはＭＩＡ事務局の方に送って下さい。また、七日迄に事務局の方に来ていませんとその支部は日本伝道部の記録の中に含まれないことになってしまいますので、会長の方は記録が間違っていないかどうか確め、次の日曜日には会長さんの署名を入れて、七日迄に届くように送って下さい。

特にマスターＭメン・ゴールデングリーナー、ガールズ・プログラム等霊的及び活動面での記録が必要となりますので注意し、受賞希望者たちが記録が正確でないため受賞することが出来ないということのないようにして下さい。

特に書記の仕事は沢山あって大変なことと思いますが正確にかつ迅速に行なわれますようお願い致します。

（伝道部ＭＩＡ書記　雨宮郁子）



覚えの書

渡部正雄

〝ここに一部の覚えの書誌さる。その中に誌すところはアダムの言葉にてなり。そは霊感の「みたま」によりて書き誌すために、神を呼び求めたる者にみな与えられればなり〟（モーセの著、六・五）

〝……最初の先祖アダムをわれら知るなり。そは神の指もて教えられたる手本に従い、われらの中に覚えの書を誌し来れり〟（モーセの著、六・四五、四六）

〝Book of remembrance〟（覚えの書）は人類の始祖アダムの時代から、神のみこころによりその教えに従って人類の間に誌されてきたのであります。

万国の民の父として〝わたしはあなたの子孫を地のちりのように多くします〟と祝福されたアブラハムも次のように言っております。

〝されど、神権の権能に関する先祖すなわち族長らの記録は、主なるわが神わが手の中に守り置きたまいぬ。この故に創造の始まりの知識も、また諸々の遊星、諸々の星の知識もこれらが先祖に知られたるままわれ今日まで守り来たれり。されば、わが後に来るべき子孫のため、この記録にある若干のことを努めてここに誌すべし〟（アブラハムの書一・三一）

モーセがシナイ山から下ってきたときイスラエルの民の送った偶像、金の子牛と踊りを見て怒り、主のもとに帰って、言いました。

〝ああ、この民は大いなる罪を犯し、自分のために全の神を造りました。

今もしあなたが、彼らの罪をゆるされますならば――。しかし、もしかなわなければ、どうぞあなたが書きしるされたふみから、わたしの名を消し去ってください。〟と言っております。

旧約聖書の最後の予言者マラキは、

〝そのとき、主を恐れる者は、互に語った。主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして主を恐れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚えの書がしるされた〟（マラキ書三・一六）と言っております。

また、ニーファイは次のように記しております。

〝そのとき、主を畏れし者は互いにたびたび語り合いたれば、主は耳を傾けて、その話を聞き、主を畏れてその名を尊び、し者たちの行いを記念する書は誌されて主の前に置かれたり〟（ニーファイ第三書、二四・一六）

而して主は末日の予言者を通じて次のように啓示されました。

〝われ黙示者ヨハネが現にこの死者の問題に就きてつらつら考えおりしを、汝ら想起せんことを欲す。而して彼の宜べしところは汝ら黙示録第二十章十二節に見るが如し。すなわち「われまた、死にし者の大なるも小なるも、神の前に立てるを見たり。而して、数々の書開かれ他にまた一つの書ありて開かる。すなわち、生命の書なり。死人はこれらの書に録されたるところのその行為に随いて審かれたり」と。

汝らここに引用せる一節に於て、数々の書開かれまた他に一つの書開かるるを見出せど、その書はすなわち生命の書なり、されど死にたる者は、数々の書に録せるその行為に随いて審かれたるを見出さん。従ってここに言う数々の書とは、人々の行為を録せる書に相違なく、またこの世に於て録さるる記録を言うに相違なし、また生命の書とは、天に於て録さるる記録なり。……すなわち、すべて汝らの記録するところは、天に於て記録さるべきこと、これなり〟（教義と聖約、百二十八・六、七）

私は恵まれまして、以前に私と妻の系図探求を手伝ってくれていた息子たちか

渡部兄弟の家族と覚の書

ら昨年のクリスマスに最上の贈物を二ついただきました。一つは十二月十七日に生まれた長男の娘に初孫であり、もう一つは二男三男が贈ってくれた黄金に輝くハワイ神殿の入った "Book of remembrance" のカヴァーであります。

私は喜びに高鳴る胸を抑えながら早速我が家の、系図、家族の記録（系図協会に提出した分、記録された分、神殿の儀式が終って戻って来た分）個人の記録、家族史誌、肖像入り系図、白紙（バプテスマ、按手礼、神権の聖任、神殿の結婚などの諸証明書、祝福師の祝福、写真などを添付する）などをまとめましたところ、誠にそれは輝く金字塔、生命にも代え難い家の宝となってしまいました。

第一号の孫娘の写真も早速、貼られました。子供の写真は多すぎるのでバプテスマ、伝道、結婚式などに制限しましたこれから子孫を増し加えて行く毎にこの家の宝は厚くなって、我が家の家宝として子々孫々に伝えられて行くことでしょう。

現代の啓示を通して主は命じておられます。

"またおよそ一切の記録を整頓して、以て聖なる神殿の文庫に、これを蔵め、而してこれを末代までの記念とすべし"

（教義と聖約百二十八・九）

私はこの覚えの書の巻頭に十数年前、この日本の地に伝道したジョン・D・チェース長老とうつした写真を貼りました。

私たちがモルモン一家として今日のこの無上の幸福を得たのは、勿論多くの宣教師始め、愛する兄弟姉妹皆様のおかげでありますが特に彼のおかげであり今日も尚彼は私たち家族の守護神であり完全に家族の一員であるからであります。

私の子孫の続く限り、彼に対する感謝の念は語り伝えられて行くでしょう。

この末日に私たち会員に告げられた、主の言葉を再び振返って見ましょう。

"見よ、主の大いなる日は近づけり。主の来りたもう日に当り得るは誰ぞ。主の現われたもうとき、堪え得るは誰ぞ。主は金を吹き分くる者の火の如く、布さらしの洗剤の如し、主は銀を吹き分けてこれを精製する者の如く座を占めてレビの子らをきよめ、金銀を精煉する如くにこれを浄め、かくて義しきに適う捧物を主に捧げしめたまわん。この故に、いざわれら一教会員として、一人の民として、また末日の聖徒として、義しきに適う捧物を主に捧げん。またいざわれら、主の神殿の完成せるとき、その中に於て、主が完全に受け入れたもう価値ある、われらの死者の記録を載せたる一冊の書を主に呈せん"

（教義と聖約、百二十八・二十四）

註、この素晴らしいハワイ福殿、またはソルトレーク神殿の画の入った覚えの書のカヴァーは伝道本部を通じて注文できます。価格は三弗から五弗くらいまであるようです。

○第二回ハワイ神殿訪問者へ

来る六月始めにハワイ神殿へ訪問するときに各神権者は自分自身を夫とする、直接自分のファミリグループ・シート英文一枚（英語に漢字も入れる）を忘れずに携行するように、既に提出した人の分は私が本部に保存していますので、まとめて持って行って、神殿に入る前にお渡しします。提出したかどうか、はっきりしない人は出発前に一度チェックして下さい。

“オガ支部”ご紹介

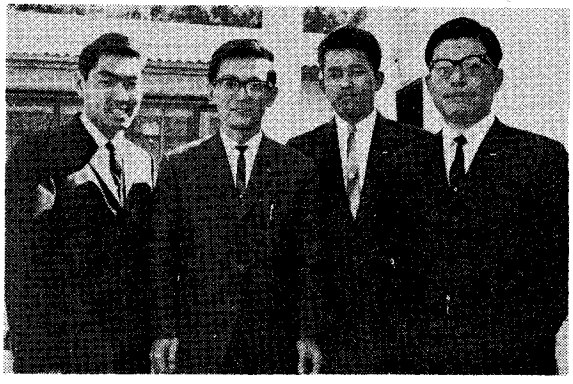
〈支部だより■特集〉

北から南まで

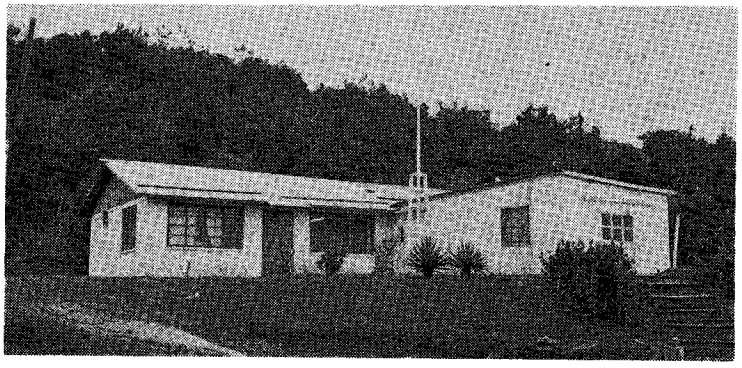
普天間支部

ここ南国の地沖縄では、桜の花が満開し本土に先がけて春の訪れを感じる今日このごろです。私たちは一月に伝道部より田中健次兄弟をお迎してホームティチングプログラムについて御指導を受け、勉強になりました。今年普天間支部でも新しい目標を持ち、その一つに今年中に私達の教会堂の建築許可が得られるように努力しています。このホームティチングプログラムを成功されることが私たちの目標を達成させる道に通ずるような気がします。支部長として、私の願いは、一人でも多くの会員が本当の幸わせと喜こびを持って生活できるように私の小さな力と才能と時間で、少しでも助けることができればと望んでいます。私の尊敬する人は、常に主のために努力されている兄弟姉妹です。普天間支部にも私の尊敬する多くの会員がおりますことを感謝しています。現在新しい支部長会ができました。第一副支部長に建築宣教師として日本で奉仕していた、古波啓次兄弟、第二副支部長にハワイ出身の古賀長老、支部書記に年輩の伊礼門実兄弟の方々で私も心強く感じています。

普天間支部長　屋冨祖　昭



支部長会メンバー



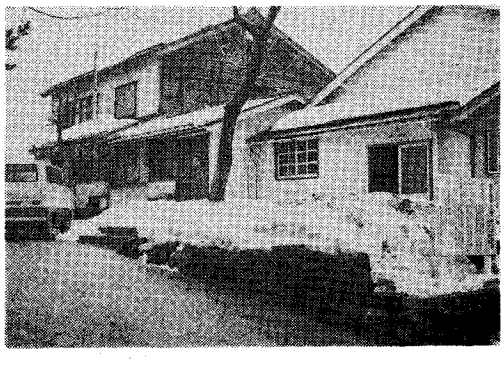
金沢支部

今年は次の聖句を中心に頑張りたいと思う。

汝須らく謙遜なれ、さらば主なる汝の神は手を取りて汝を導き汝の祈りに応えん。（教義と聖約第百十二章十節）

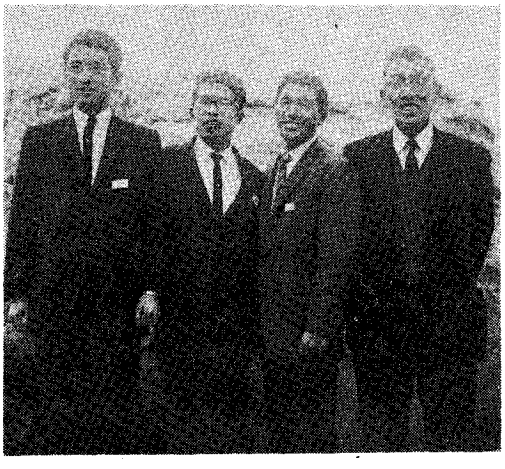
人間は自分の考えが一番正しいと思って行動しがちである。教会で責任を与えられ、それを神からの召としてよろこんで引受け、自分の力だけでなくて神の力によって全うすることができるのだということを理解するまで多少時間がかかるようだ。「みたま」の助けなくては働くことができない。何年か前、なんだかんだといって支部をいろいろ批判して楽しんでいたころのことを思うと我ながら変ったと驚いているのである。

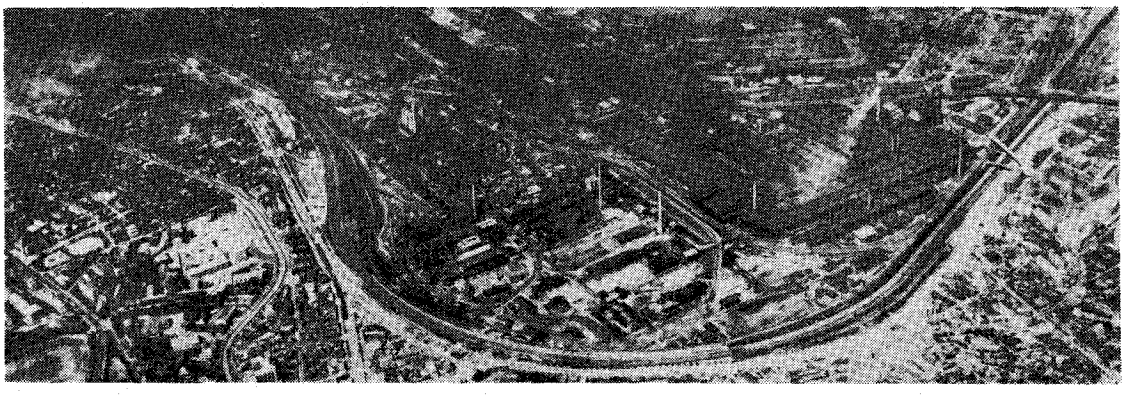
支部長会メンバー



柳井支部

昨年から柳井支部総力をあげての目標であります教会出席者をふやしそれにより礼拝堂建築を速進してゆくと言うこと、今年もこの目標に向って一路万進する覚悟です。そのためには色々な方法があります。不活発会員の個別訪問、友人家族を教会に紹介する。求導者を歓迎する。宣教師を助けて求導者をふやす。新会員に早く責任を与える、等これ等は私等はよく心得ていることです。しかし一番大切なことは即実行に移すことです。七つの計画よりも一つの行いが実をむすぶことこそ大切です。





支部開設の準備とその報告

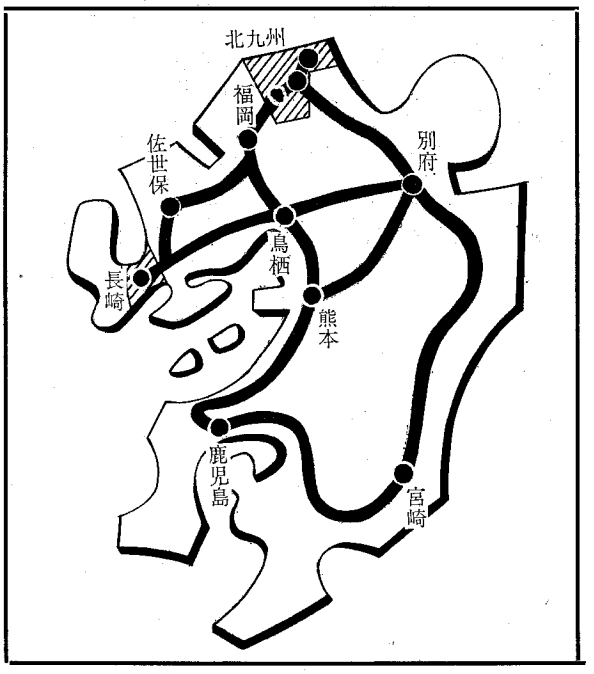
北九州市 報告

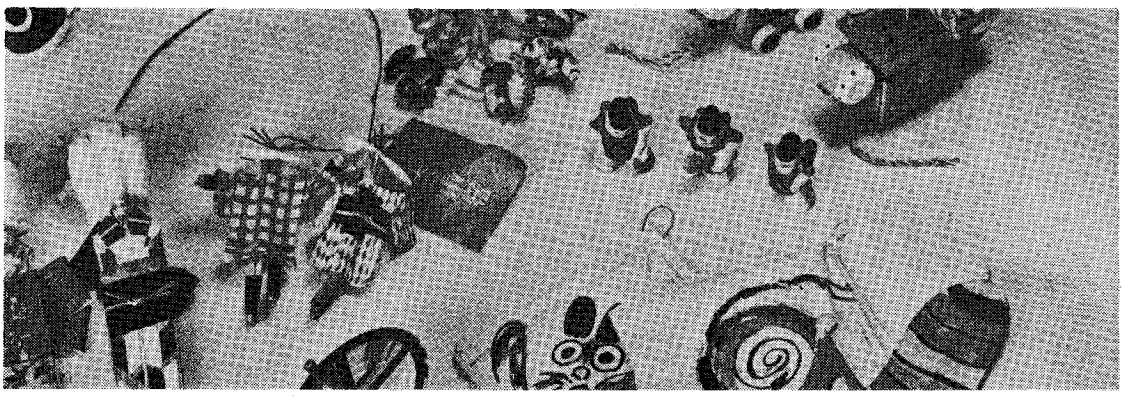
十一月の九日にブレーク長老とミユラー長老は北九州に支部を建てるために汽車で北九州に向っておりました。彼らは食堂車で将来のことを話し合っていたとき、ブレーク長老は、その他に早く落付いて成功できるように翌日断食することに提案しました。彼らが食べ終って、自分たちの寝台に戻ったとき、小倉からの二人の人が彼らの上の寝台にいるのを見出しました。しばらく彼らと話をして彼らが柳瀬株式会社の外国車セールスマンであることがわかりました。そして東京での仕事を終えて帰るところでした。話ししている間にその一人飯田氏は、会社の車でドライブしてアパートを探してあげようと申し出ました。

翌朝私たちは小倉に着いて、明速家探しが始まりました。そして数多の家を見た後、若園町に新しく建てられたアパートに決めました。近隣は立派で人々は理解があります。最初の数日間は私たちは市の有力者を訪問していろいろな教会に就てのパンフレットや資料を配布して教会を紹介しました。私たちは市内に住んでいる会員を探しましたが成功しませんでした。私たちは戸別訪問をしましたがそれは成功して多くの人が福音に耳を傾けました。

しばらくして私たちは大熊氏に逢い彼は非常に福音に興味を示し、現在、奥さんと共に五回のレッスンを終え、近くバプテスマを受ける運びとなるでしょう。

十二月の中旬にブレーク長老は、宣教師の任期を終へて解任となりアメリカに帰国しました。その代りとしてウイギンズ長老が北九州に遣わされ、そのときから私たちは高峰町に移りました。ここの





方が前のアパートよりもっとよく親しめました。私たちは続けて戸別訪問をし、また会社の質問調査依頼をも試みました。

私たちは、この伝道は時間の問題であって堅実に努力して行けば必ず成果が上がるものと感じております。そしてこの偉大な事業に参加ができる特権を感じすべての人の祈りと助けに感謝しております。

長崎市報告

最初私たちは長崎市郊外の立山ユース・ホテルに十日間過しました。彼らは私たちがアパートを探す間、大変親切に寛容に待遇してくれました。

遂に私たちは五分で街に出れ三分で駅に着くところに大きな二部屋（日本間）のアパートを見出しました。何と大きな祝福でありましょうか。

住所は　銀座区八―三〇

同時に立山のユース・ホテルの好意によりその二階の小会議室を一人十円の代価で借りれることになったので集会の問題も解決しました。それは二十五名程、収容できる誠に宗教的なふんいきに完備された部屋であります。

私たちは宣教師宅を整備するのに時間を費しました。そして私たちの浴場の問題は家屋取壊しの一団の人の素的な材木の寄付により、しかもただで銭座町まで運んでくれたことによって解決しました。これも全く天から贈られたものでありました。

宣教師が到着したことを知らせる四万枚のトラクトを印制し、その多くを市の目抜き通り浜町で、人々に手渡しました。

十一月のある日、浜町でトラクトを渡しているときに大平という名の一青年に逢いました。彼は一九六六年の二月か三月にマッキュム長老が長崎を訪ねたときに逢い、そのときから暖い友情を保ってマッキュム長老が帰国してからも、文通を続けていたのでした。そしてマッキューム長老から遂に長崎に宣教師が派遣されたことを知らされたので一生懸命探し求めていたところだったので、私たちに逢ったときはすっかり興奮しておりました。

話を長くならないように省略して述べましょう、彼は教えを受け一月の四日、ちょうどフィルモア長老が東京に出発したその日にバプテスマを受けました。

今日彼は多くの求道者を宣教師の許へ伴って来て、多くの家庭集会に同席しております。彼は毎週教会に出席し祈り、お話しをし、誠に活発で偉大であります。

ここで特に矢野兄弟に就て申し上げたいと思います。私の考えでは彼がいなかったら、これまでになることができなかったと思います。毎日曜に彼は二時間もバスに乗って日曜学校のクラスを教えに来ます。彼は大平兄弟の五回のレッスンに出席するために五日間、二時間のバスにゆられて来たのでした。またその後ただ、大平兄弟のバプテスマ式に出席し聖霊の賜を授ける按手礼を行うために、わざわざ福岡から来たのであります。誠に長崎市からバスで二時間の大瀬戸市に偉大な人が住んでおります。

現在多くの家族が教えを聞き、教会に集っております。

印象

一、市の主なすべての丘にカトリック教会が建っております。

二、長崎市は海沿いの岡に建てられた、スペインの都市のように見えます。

三、日本に於ける、友情の厚い人々の住む美しい市街です。

四、確かに二十年以内にこの市にシオンのステーキ部が建てられるでしょう。

五、気候は恐らく日本で一番暖いでしょう。

六、私たちは長崎市が好きです。

七、現在戸別訪問に全力を挙げております。

証

柳田喬夫長老

モルモンの兄弟姉妹達こんにちは。今私は熊本支部で宣教師として働くことのできる機会を心から感謝しています。

私はこの末日聖徒イエス・キリスト教会が真にジョセフ・スミスによって回復され、地上にある唯一の、神様の御心に適った素晴しいキリストの教会であるとはっきり心の中に理解しています。ただ漠然と信じているというのではなく、誰が何を言っても、どんなことがあっても、このことを誰にでも言うことができます。このことは私に与えられた大きな祝福の一つだと思っています。もちろん私がこのように信ずることができたのには理由があります。一つはモルモン経、もう一つは神様の助けと祝福です。

モルモン経は、現在この地球に数えられない程度までに出版されている幾種類もの本の内、最も価値がある本です。何故なら、このモルモン経によって、私たちが永遠に幸福を摑むことができるからです。モルモン経の中には素晴しい神様の教え、またそれを守ることによって大きな祝福が約束されている律法が沢山載っています。けれども私は、モルモン経により真の教会を信ずることができる。ということが最も偉大な祝福であると思います。この末日聖徒イエス・キリスト教会により、私達の先祖は私たちと同じ喜びを受け、また自分の愛する人と一緒に永遠に進歩できるからです。これ程素晴しい祝福、恵みがあるでしょうか。私は、今日、この末日にモルモン経が与えられているということを、心から感謝しています。モルモン教会を信ずるためには、この本が、真に天使を通して神様から与えられた本であることを信ずることが必要です。けれども私は、誰でもこの本を読み、研究してゆくと必ず、モルモン経は確かに古代予言者によって書かれたものであり、このモルモン経を持っている末日聖徒イエス・キリスト教会が、真のイエス・キリストの教会であることを理解できると信じています。モルモン経を読むとき、私はいつも感動し、神の偉大な愛に感動せずにはいられません。特に、私はアルマ書に出てくる二千六十人の若者達のことを読む度に、彼らの持つ強い信仰に感激し、またこのアンタイ・リーハイ・ニーファイ人に対する神様の限り無い愛情を思い起し、自分も彼らのように強い信仰を持たなければと思います。その他にも多くのできごと、誡命を通して、私たちは神の愛を知り、イエスがキリストであると信じることができます。

私にとってモルモン経は丁度大きな川に作られた橋桁みたいなものです。対岸の神様の御国に入るため、神様の福音、研究して得る知識、誡命を守った経験など、全てのことから生まれてくる信仰により一生懸命に橋を渡すように努力しています。けれども時々悪魔の狡猾な謀ごとによって起こる洪水にその掛けている橋が流されてしまいます。しかし、モルモン経という強い橋桁だけは洪水にも負けず、再び神の御国に入るため信仰の橋をすぐに掛けることができます。現在これ程秀れた本があるでしょうか、聖書も聖典ですが、聖書だけでは真のイエス・キリストの教会を見出すことができません。

以前私は福音を自分の頭で考え、自分の考えが及ばない所はダメである、として捨てていたときがありました。ある日、長老の証を聞き自分が高慢であったことが恥しくなり、少し謙遜になってモルモン経を読んでいました。そのとき私は第二ニーファイ九章の「人間は学問があると自分は賢いと思

って神の訓戒に耳をかさず、自分独りで解ると思って神の訓戒をうち捨てるから、その智恵は愚かであって何の益にもならず、かれらはついに亡びるのである。もしもかれらがその誇る所をうち捨て神の前に自分らを愚かな者だと思って低くへりくだるのでなければ神はかれらに門をお開けにならない」という聖句を読み、全くその通りだったと悔改めることができ、神様があらゆる方法を通して、自分の子供達を正しく導く道を備えられていることを知りました。

私はまた神の祝福をいつも感じています。今宣教師となっているのも、神様が祝福を与えて下さったからです。私が伝道に出たい気持が素晴しい長老の証によって起きたこと、また私が伝道に出たいと言った時、心から賛成し喜んでくれて、また協力してくれている家族を持っていること。全てが神様の祝福であると思うとき、私はこの神様の愛に負けないように隣人を愛し、自分だけでこの回復された福音を受けて、約束されている幸せを独占せずに福音を宣べ広めなくてはと思うのです。

私が宣教師になってから、素晴しい経験をしました。それは今までに味わうことのできなかった満足感、喜悦です。

私の最初の支部、北支部で家庭集会を持ちました。そのとき求道者はいつも私達の予期していない答をします。そんな時私達は自分の頭に浮かんで来る事柄をどんどん話します。何故ならそのことが一番良い方法であると、知っているからです。同僚は私に、それは聖霊の導きによるのであると教えてくれました。ですから、そのような集会の後私たちは、非常に素晴しく良い気持になります。口では言い表わすことのできない幸福感です。全く素晴しい経験です。私はこれらの経験により、聖霊の導きが実際神様の仕事をするときあることを証します。

この末日聖徒イエス・キリスト教会に加わっていることが私たちに与えられている大きな恵みです。何故なら、現在私たちは神様から与えられている一番尊いもの、すなわち自由意志をいろいろ使う機会がありますが、その中で最も重要で且つ最も祝福に満ちた機会に使うことができたからです。多くの人たちはその自由意志が与えられていても、イエス・キリストの教会に対して、それを受け入れるか、それを拒むかその機会がありません。私はその機会に恵まれ、またそれを正しく使うことができたことに心から感謝しています。

この機会を人に与えることができる宣教の召しをいただいていること、この伝道を通して多くの人たちの愛を感じとることができることを感謝しています。また本当の幸福とは何であるか、ということをはっきり理解でき、また信仰をより強くできる機会に恵まれていることに感謝しています。

すべて御子イエス・キリストの御名を通していたしました。アーメン。

安達郁子姉妹

多くの人々から助けられて、今宣教師と召され伝道できますことを心から感謝しています。神様は、予言者を通してお言葉を聖書に表わしました。私には、聖典が与えられ、神様の御心を知ることができますことを、心から感謝しています。

ヨハネの第一の手紙三章一節のなかに「わたしが、神の子と呼ばれるためにはどんな大きな愛を父から賜わったことかよく与えてみなさい。わたしはすでに神の子なのである。世がわたしを知らないのは、父を知らなかったからである」とあります。天のお父様を知り、その御心を心から受け入れ、バプテスマを受けたのは、今から約二年と十一カ月前の四月十九日のことでした。

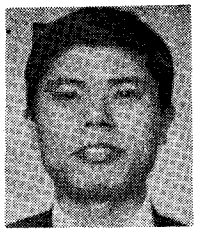
それよりずうっと以前に、私は宣教師から導きを受けて教会員になっていた姉から教えを聞かされていました。また何度かは教会に行くことを誘われていました。当時の私はどうしても素直になれず、教会を神様を理解することができませんでした。

しかし、神様の御心なのでしょうか、それ以来、私の心は真理探求の方に向けられ、少しずつではあってもいろいろなことが理解できるようになってきました。宣教師からバプテスマの日附のチャレンジを与えられても、私はかたくなな心と高慢のために心よく返事ができませんでした。しかし、あるときその心を淋しく感じるときがあり、正直に神様に祈ってみました。

神様は祈り求める私に導きをくださいました。実に神様は生きておられ、忍耐強く、すべての人々が神様の御もとに立帰るように待っておられます。神様は、誠命を守り、忠実に歩む聖徒らに大きな祝福を与えたもうことを証します。イエス・キリストは、この世

の救い主でありますこと。そしてジョセフ・スミスはこの真の教会の回復者であり予言者であることを証します。

アーメン



石坂晃一長老

兄弟姉妹ならびに宣教師より福音の紹介を受けている求道者の皆様、いかがお過しのことでしょうか、私は昨年十二月より宣教師として召され現在東地方部の一城下町福島市で、新支部の発足のため、日夜努力しています。皆様もご存知のとおり福島県の人々は、そのもてる人情と義理と忍耐性をかねて、県民性を豊かなものにしています。そしてこのたび主の祝福があり福音の基がおかれたのです。私は只々この重要な責任について心を新にして喜びに浸っています。〝汝にとりて最も価値あることは汝今の世の人々に悔い改めを宣べて人々を我に導き次て彼らと共に父の御国に休まんことなり〟教義と聖約十五章六節。〝汝ら今の世の人々に向いて、悔い改めのほか何事をも語るべからず、我が誡命を守りまたわが誡命に従いてわが業を起すを助けよ、さらば汝ら幸福なり〟教義と聖約六章九節主の語れしごとく、主の手先となり働き奉仕できますことを最上の喜びとしています。

このように教会員となる以前から人性に於て自分の行動の基準と状態をどこに置くべきかを意識的に、否むしろ無意識に考えていました。そして教会の宣教師を訪れた際にも（小さな紙きれによって導かれたのですが）信仰により生きようという気持よりも何に信仰を持とうか。すなわち最も価値あることは何かということ。いいかえれば真理を求めていたのです。こんどの教会員がことばの表現方法は異なるにせよ、このようにして福音を得る機会を得たでしょう。そして私の霊は世の光すなわちイエス・キリストを探していました。

ヨハネ伝の中で主は〝また真理を知るであろう、そして真理は貴方に自由を得させるであろう〟再度このことばに胸を打たれるのです。この末日に於てその全きの光の中を歩むことが出来ますこと感謝しています。それは父なる神様と御子イエス・キリストの恵みであり、ジョセフ・スミスの前に親しく現われこの末日の人々に真の教会と神権を回復なさったことであります。そして回復された神権により、召され、宣べ伝えることができますことを感謝しています。

この貴い神権を授けられている兄弟たちに申し上げたいのです。心と思いをつくして神の業をして欲しいことを、なぜならば兄弟たちは既に聖められたものであり、主に認められたものであるからです。〝目を覚ましていなさい、信仰に立ちなさい。男らしく、強くあってほしい。いっさいのことを愛をもって行ないなさい〟コリント前書十六章—十三～十四。

私たちの全ての事柄についてパウロの助言に従いたいものです。それは主に従うことであり、予言者に従うことであり伝道部長に従うことであり、地方部、支部長、そして隣人に従うことであります。それは私たちが神様の啓示すなわち〝真理〟に従ったことです。これにより完全なる喜びが、現世に於いても受けることができるのです。私は末日聖徒イエス・キリスト教会の兄弟姉妹が最もこの原理原則を理解していることをしっています。そして最も真理を知る道をも備えもっているのです。悪に対する。すなわちルシェルに対する最も強きものは貴方方自身であります。なぜならば常に聖霊の賜が教会員と共にあるからです。誠に完全なるイエス・キリストの教会員であることを心より感謝しています。願わくば多く人々がキリストにあって、地上の愛を日の光栄に到達させ、ひいては、多くの人々が完全なる救いを得られるようイエス・キリストの御名によりお祈りいたします。アーメン。

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠　上質革製合本
モルモン経　一一〇〇円

教義と聖約
高価なる真珠　合本……三〇〇円

モルモン経（新約）……三〇〇円
信仰箇条の研究……三三〇円
基督・イエス……三〇〇円
末日聖徒イエス・キリスト教会略史
……一一〇円
モルモンとは（新版）……一五〇円
総合聖句の手引……一五〇円
メルケゼデク神権、教師と生徒用
モルモン経の読み方と手引……二二〇円
アロン神権者用学科課程……一五〇円
神の王国……二三〇円
アロン神権者用手引……一〇〇円
アロン神権のなかの祭司……一八〇円
回復された神の教会……一〇〇円
神と人……二〇〇円
家庭に於ける神権の発揚……一五〇円
モルモン経の新研究……三三〇円
日本系図探求要覧……一一五円
扶助協会手引……一五〇円
求道者教育法……一二〇円
道は開ける……四五〇円

日曜学校用

モルモン経物語……一五〇円
旧約聖書物語……一五〇円
福音の実践……二〇〇円
我等の標準聖典……二〇〇円
古代の使徒……一五〇円
教義と聖約の教え……二〇〇円
福音の紹介……一七〇円
完成への道……一〇〇円
宗教生活……一五〇円
奇しきみわざ（合本）……二七〇円
家督権の祝福……一〇〇円
家族の昇栄……二〇〇円
シオン山の救い手たち……二〇〇円
レッスンの手引……六〇円

MIA用

MIAの手引……一二〇円
我らは信じる……二〇〇円
我らは生きる……一二〇円
我らは奉仕する……一五〇円
よりよいあなた……一七〇円
生活の目標……一五〇円
今日の十誡……二五〇円
エンサインローレルの手引……一五〇円
演説が上手になる法……一五〇円

ロールブック

MIA……一〇〇円
扶助協会……一〇〇円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌集（新版）……四〇〇円
リクリエーション歌集……四〇〇円

その他ブックカバーなど

モルモン経カバー……二〇〇円
教義と聖約カバー……二〇〇円
合本カバー……二〇〇円
信仰箇条の研究用カバー……二〇〇円
聖餐カップ（一箱）……二五〇円
聖餐クロス（一セット）……三二〇〇円
ブレッドトレイ……一三七五円
ウオータートレイ……二七五〇円
LDSバッジ……一〇〇円

図書の購入は支部長会に申し出てください

聖徒の道は
私たちが真理を知る「てだて」であり
私たちの心と心がかよう道です
あなたの霊の進歩のために
あなたの信仰のかてのために
お役に立つ本であればと思います

聖徒の道
一九六七年三月一日発行
振替口座　東京一六二二六番
発行人兼編集人　アドニー・Y・小松
発行所　東京都港区南麻布五丁目八番十
末日聖徒イエス・キリスト教会
電話　四七三―一六一三
印刷所　株式会社三五堂
定価七十円
一年予約七〇〇円（申込は支部長まで）

支部所在地

北海道地方部

旭川	旭川市8条5丁目 MIA集会所　旭川公会堂 電話（0166―2―1545）
室蘭	室蘭市幸町89 電話（0143―2―7054）
小樽	小樽市富岡町1ノ35 電話（0134―2―7054）
札幌	札幌市南20条西16丁目 電話（0122―56―7175）

東中央地方部

群馬	高崎市並榎町275 電話（0272―2―7121）
甲府	甲府市中央3丁目12―2 電話（0552―3―2409）
松本	松本市開智1ノ1ノ6
新潟	新潟市中大畑町557 電話（0252―22―8660）
仙台	仙台市光禅寺通り28 電話（0222―25―0897）
東京中央	東京都港区青山北町6ノ34 電話（03―408―3307）
東京北	東京都中野区江原町1ノ8ノ14 電話（03―953―8244）
東京東	東京都江戸川区西小岩5ノ8ノ6 電話（03―657―9460）
東京南	東京都大田区南千束町2―25―11 電話（03―729―6311）
東京西	東京都武蔵野市吉祥寺東町1ノ7ノ7 電話（0422―22―6764）
山形	山形市七日町4丁目12ノ23 電話（02362―3―3380）
横浜	横浜市港北区篠原町29 電話（045―40―8772）

西中央地方部

阿倍野	大阪市阿倍野区阪南町中1―11―8 電話（06―623―4315）
福岡	福岡市浄水町46 電話（092―52―8653）
広島	広島市古田町古江400ノ3 電話（0822―71―5309）
金沢	金沢市兼六元町3ノ8 電話（0762―21―2131）
京都	京都市左京区下鴨松原町44
名古屋	名古屋市昭和区北山町3ノ41 電話（052―73―4210）
西ノ宮	兵庫県西ノ宮市仁川町4ノ54 電話（0798―51―0141）
岡町	大阪府豊中市岡町北2ノ18 電話（068―52―1236）
岡山	岡山市学南町1ノ13ノ11 電話（0862―52―3560）
三ノ宮	神戸市灘区篠原本町4ノ35 電話（078―86―2602）
柳井	山口県柳井市今市391

沖縄地方部

普天間	沖縄宜野湾市野嵩区328
那覇	沖縄那覇市崇元寺町1―128―20 電話（3―1620）
建築部事務所	東京都港区青山北町6ノ34 電話（402―4010）

（誤りのある支部の支部長はご一報ください）